

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390500169		
法人名	株式会社AKIコーポレーション		
事業所名	グループホーム咲こまい		
所在地	名古屋市市中村区佐古前町1-26		
自己評価作成日	令和4年12月20日	評価結果市町村受理日	令和5年1月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会		
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5		
ヒアリング調査日	令和5年1月17日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一昨年に引き続き新型コロナウイルスの蔓延の為、保健所のご指導のもと感染症対策を続けております。ご利用者様が外出できる機会である散歩も欠かさず続けて気分転換を図っております。室内でできるレク等や、職員によるライブキッチンのおやつ作りや、ご家族様のご理解を頂きご利用者様のご希望をお伺いして宅配やテイクアウトによる「お楽しみ昼食会」を毎月開催し、急なリクエストにもできる限り対応し「コロッケ」「焼き芋」「サラダ」等を当日にご用意いたしました。また、昨年同様ご近所の花屋さんからのご提案で「生け花」を月に一回とり入れました。また、丸7年入居され今年で数えの100歳になられたご利用者様の看取りをさせて頂き、最期はフロアの他利用者様もお別れが出来て自然な形で看取りをさせて頂きました。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所  
 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。  
 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」 ②軽減要件確認票 ③目標達成計画

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各りびング・玄関に理念を掲載している。業務日報は職員が毎日見るものなので理念を貼り共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会にも参加しており、町内会議の場所を提供していたが、コロナ禍で一昨年に続き一度も開催はない。お便りは毎月と活動内容のまとめを2か月に一度民生委員さん、町内会長等に配布している。町内会議の報告は町内会町さんが報告書を持参してくださり町内の出来事を教えてください。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で認知症カフェも開催できずにいる。地域の方からは「まだやらないよね?」とお声はかけて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	一昨年から運営推進会議を開催しておらず、活動報告として「ご報告」と言う形で2か月に一度はご家族様、いきいきさん、民生委員、町内会長、ご家族様に配布している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に一度お便り等を持参して交流を図っている。社会福祉協議会で行われる認知症カフェの会議に参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	厚生労働大臣が定める基準をすべてクリアしたうえで施設内研修を実践している。玄関の施錠はしていないが各フロアのエレベーターはロックされている。車の交通量が多い道路の横に位置するビルの中にあるため危険回避を優先している。フロア内もかなりの広い面積があり利用者様に窮屈さはあまり感じないと思う。身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	フロア会議の時や申し送りの時に虐待防止についての勉強会を行い研修の中でも勉強している。職員全員が虐待に対して正しい知識を持ち、言葉でも虐待になる事を理解してもらい、利用者の尊厳が失われないよう、努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・リーダーが主となり権利擁護に関する内容を学んで伝えていっている。また、いつでも助言や説明ができる様に努めていく。以前市の研修にも2名参加した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書・重要事項説明書などの要点を読み上げて、確認しながら説明を行っている。不安点や疑問点がある場合はその都度説明を行い、理解や納得して頂いた上で、同意をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族様から苦情や要望、相談などの意見がいつでもできるように、意見箱の設置や意見しやすい環境作りに努めている。体調の変化や購入品の許可を得る為管理者やリーダーがご家族様にお電話する機会が多く、その場でご意見を頂くこともある。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議や申し送り時にコミュニケーションを図っている。それを踏まえ、職員からでた意見をできるだけ運営に反映出来る様努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各種資格手当や責任能力に応じた給与体系をとっている。また、資格取得に向け正社員には通学しやすいようにシフトに組み込む、受験日は特別有給とした。理学療法士を目指すパートさんには学校に通いやすいシフトに調整していた。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は施設外研修に正社員には勤務としてパートには受講料と交通費は支給し行きやすい環境づくりをしている。 Zoom研修をとり入れた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	学区の介護事業者連絡会に入会はしており研修の機会があったが、急な施設での対応があり参加できなかった。認知症カフェで参加したときに各施設での取り組みを知ることが出来た。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に事前にアセスメントを行い、職員に利用者様の情報を把握して頂き、職員全体で統一した関わりを行う事で、安心して過ごせる雰囲気づくりに努めている。本人の困りごとには居室内で対応し悩みを共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前にご家族様からもアセスメントを行い、意見や不安などを聞きだし、提案と一緒に解決していくことで安心して頂き、ホームへの信頼を得る努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の事前面談時に利用者様本人、ご家族様から希望や要望などを伺い、どう過ごしていきたいか、何が必要かを話し合いながらサービス内容を提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「利用者様」ではあるが、家族のような何でも話せる、信頼関係の強い関係を築いていきたい、ホームは家という考えを持ち、関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会の制限が緩和できると判断した時には、直接ご家族様にお電話し伝えている。また、ご利用者様の状態や様子などに変化があった場合はその都度リーダーや管理者がご家族様にお電話や一筆箋でお知らせしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染拡大状況に応じて、面会の方法を変更し、なるべくリラックスした状態で面会できるように支援している。最近では玄関先で後の予約が入っていなければパーテーションを挟んで2時間以上娘様と面会をした方もみえる。その後コロナ感染者数増大で中止となる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の性格や利用者同士の相性などを見極めながら、時には職員が間に入るなどの配慮を行っている。また、個人の時間も尊重し、一人の時間も大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後もこれまで同様、相談や情報提供などの支援がいつでもできるような関係で取り組みが出来るように努めている。退所されたご家族様からメールや電話を頂き現状を教えて頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の事前アセスメントを基に本人の思いに沿った暮らしの支援を行っていくとともに、入居後も定期的に本人や家族様の希望や意向をケアプランに反映させている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人・ご家族様にアセスメントを行い、これまでの生活歴や生活環境を把握している。またサービス利用先でその時の様子や内容を把握し、馴染みの暮らしができる様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、一人一人の介護記録に利用者様の様子・体調の変化などを記録に残し、状況の把握に努めている。また、毎朝と夕方に申し送りを行って、職員間で情報の共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に本人の様子や体調の変化などに注意し、どんなことでもご家族様に情報提供をし、思いを聞き取っている。また、定期的にモニタリングを行い、カンファレンスを開催して、ケアプランに反映している。また、色々な要求の訴えが頻回な方はご家族様に言い方のアイデアを頂き要求を緩和させてもらっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、利用者様の様子や言葉などを介護記録に記入している。また、職員の引き継ぎの時は、申し送りを行い、利用者様の状況や変化などを伝えている。特に変化のある個所は色分けマークで目のつきやすいように工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族様のニーズに対しては、ホームで可能なサービスをご家族様にもご協力を頂き、状況に応じて行っている。また、外部のサービスも取り入れており、柔軟に取り組んでいる。遠方のご家族様には通院介助を施設で代行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保健所の指導のもとコロナ禍の中でも散歩は行って来た。有料ではあるが近所のお花屋さんからお値打ちな生け花の提案を受け月に1回開催している。皆さんとても喜ばれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム入居後もかかりつけ医との関係を維持していき、必要に応じて情報を提供してもらったり、必要があれば診て頂く。本人とご家族様の意向を尊重し、適切な医療を受けられるように支援している。ご家族様と一緒に必要な時は通院する方もおられる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回訪問看護師がみえ、日ごろの健康管理や身体の変化が生じていないか、また相談や必要があれば適切な処置を行ってもらっている。24時間オンコール可能である。月に4回程Drが往診に訪れる機会がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、速やかに看護師に情報提供書を作成してもらい、病院へ情報伝達を行っている。また、病院関係者との情報交換を頻回に行い、早期退院ができる様に努めている。病院からの退院許可があり次第、家族様対応が困難な場合は、即対応しお迎えに行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期におけるご家族様の意向も把握する努力をしている。ホーム内で、終末期の援助のなどの話し合いの場を設けて意見を共有している。今年度は2名看取りをした。5月、10月		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に急変時や事故発生時の対応や予防策の話し合いを行っている。急変時や事故発生時に職員がパニックにならないよう応急手当などの研修にも行き、実践力を身に付ける努力をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を日勤帯と夜間帯で実施している。毎月実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者様個人の人格を尊重し、一人一人に合った声掛けや接し方を行い、本人の人格を尊重して、誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。また、記録などには個人のプライバシーに配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションを傾聴して本人の思いや希望が言いやすい関係づくりに努めている。行きたい所へも行けなくなった。喫茶レクも一昨年から行ってないが、コーヒーマーカーを新調し喫茶店の雰囲気作りに勤め、手作りおやつレクに力を入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、排せつ、入浴などの最低限の決まりはあるが本人の意思を尊重した暮らしを送ってもらっている。昼夜逆転気味の方もみえるが、独居時からの生活スタイルと施設での暮らしのすり合わせを現在も試行錯誤している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装で、本人が自己決定した服を着て頂き、室内、外出時と場面に合わせてふさわしい服装を支援している。職員がバーゲン時に似合いそうな服を購入してハンガーに吊るし各自お気に入りの服を購入する機会を持った。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食、利用者様と職員は同じテーブルを囲み食事を摂っていたが、クラスターが出てからは離れた場所で摂っている。また、外食が出来なくなった為、出来る限りリクエストに応じて食べたい物をお出ししてきた。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのとれた献立を提供している。食事量・水分量は毎日職員が摂取量を把握している。個々に合わせて摂取時間や形態も工夫し、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨き・状況に応じて、舌磨き等の口腔ケアを行っている。また、義歯を使用している利用者は毎晩洗浄剤を使用し、清潔保持に努めている。毎週火曜日に訪問歯科の治療もある。歯痛や詰め物が取れた時など緊急時にも対応をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人に合ったトイレ誘導に加え、食事前後などにも行うことにより、少しでも排泄感覚を取り戻してもらうよう支援を行っている。また、利用者様のサインを見落とさないよう少しの変化にも気づけるように努力している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便状況を把握している。運動や水分、食事摂取量などに配慮している。便秘が続いた時は、主治医処方の下剤を使用する事もあるが、極力自然排便が出来る様に取り組んでいる。腹部や肛門マッサージも職員がするときもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、時間やタイミングなど体調を考慮し取り組んでいる。なるべく湯船には入れるように職員が見守り強化で入浴されている方もおられる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態に合わせて、落ち着けるような声掛けなどを行っている。安眠の為に、室内の照明や室温調節を行って、安眠できる環境づくりを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬前には職員が名前・日付・服薬時を確認し、服薬後は口腔内の確認をしている。また、薬の変更があった場合は、理由などを申し送り、服薬の支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや、リビング内の掃除などを各自に合った能力や役割分担を行う事で、生活感を出している。また、責任感を持ってもらう事で、やる気の向上を図っている。外出の代わりに好きな物を月に1~2回は召し上がれるように宅配やテイクアウトしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍前は京都など遠方にもご家族様同伴や許可を得て出かけていた。現在は散歩はほぼ毎日行っているが、コロナ禍でお買い物や外出はできなくなっている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は基本ご家族様である。一昨年から感染症対策でお店の出入りはしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話の取次ぎがある時は行き、電話をかけたいと希望がある場合は、ホームの電話を貸している。手紙の投函を希望される場合は投函も支援している。また、リモート面会にも活用している。携帯電話の充電対応もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様に落ち着いて過ごして頂けるよう、黄色の照明を使用している。また、季節にあった飾り付けをして季節感を出し、ゆったりと過ごしていただけよう工夫している。12月にはクリスマスツリーをご利用者様と飾った。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各リビングにはソファとテーブルがあり、プライベートな空間を用意している。居室とはまた違う空間があり、ゆったりと過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、今まで使っていた家具や寝具、お茶碗など自宅などにあるものを持ってきていただき、自宅と思って安心して頂けるように工夫している。ただ、余裕なくご家族様が家具を配置され動きが取れなくなった。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人一人の「できること」と「できないこと」を職員が把握し、「できること」を役割としてやっていただく。また、居室やトイレが分かりやすいように工夫し、自立した生活が送れるように支援している。		